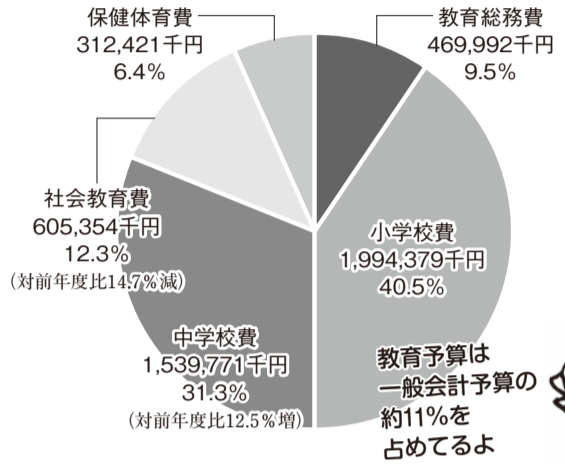


令和3年度教育費予算

令和3年第1回市議会定例会において、令和3年度一般会計歳入歳出予算448億2,000万円が成立しました。

そのうち、教育委員会が所管する取り組みには、第5次長期総合計画に掲げられた基本目標の一つである「子どもの未来と文化をはぐくむまち」に基づき、49億2,191万7千円の当初予算が組まれました。小学校及び中学校に係る学校教育全般の経費として約72%、生涯学習全般に係る経費として約19%の予算が組まれています。

【図1 令和3年度教育費予算内訳】



主なものは次のとおりです。

《学習環境》 コンピュータ運用支援委託事業 (小学校) 16,016千円▼コンピュータ運用支援委託事業 (中学校) 9,342千円▼教育活動支援事業 (理科教育) 600千円▼東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会観戦に係るバス送迎1,331千円▽学校マネジメント強化モデル事業34,712千円▼中学校教師用デジタル教科書購入事業8,784千円▼中学校移動教室事業11,020千円

《学校施設》 第三小学校西校舎棟他大規模改造工事及び体育館中規模改造他工事 (実施設計) 31,041千円▼第六小学校北校舎棟西側他中規模改造他事業 (実施設計) 14,064千円▼第二小学校西校舎他中規模改造他事業 (実施設計) 18,045千円▽第三小学校東校舎棟大規模改造事業464,160千円▼小山小学校普通教室他改修事業48,388千円▼第五小学校普通教室他整備事業66,664千円▼第七小学校給食棟プラットフォーム整備事業5,500千円▼中学校体育館空調機設置事業35,200千円▼下里中学校南校舎棟他大規模改造事業730,105千円

《生涯学習事業》 放課後子供教室推進事業16,186千円▼東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連事業11,833千円▼図書館管理運営事業250,334千円

他の事業に係る予算については市ホームページ、または市政情報コーナーや、図書館等に配架している予算書等を参照願います。



写真1 「ログインって？」「小文字と大文字ってなんだ？」。まずはログインの練習からね (小山小学校の総合的な学習の時間の授業の様子)

(2面から続く)

ね。実際に聞いてみると、「本をよく読んでいる」「毎朝ウォーキングをしている」方が多いと思います。

○委員 「生涯学習」という定義もいろいろあるでしょうから、個々の経験や感覚によっては、まるっきり異なる回答になりますね。

○教育長 生涯学習事業には「地域教育力の再構築と地域課題の解決」という、行政にとって重要なねらいがあります。

「生涯学習」は個々の活動が多いと思いますが、生涯学習に取り組む方が増えることで、豊かな心の醸成や健康の増進はもちろん、地域への愛着と言いますか、「行政と一緒に地域の課題を解決していこう」という思いを、個々の楽しみにプラスして多くの方に持つ

ていただけたらと思います。

令和3年度の生涯学習事業の中では、「放課後子供教室」が目玉の一つと言えらると思います。保護者からの要望もかなり多い事業でして、ノウハウを持って民間に委託して、全小学校にスポーツや文化等の生涯学習に触れる機会の提供を図り、放課後における子どもたちの安全安心な居場所づくりを図るものです。

○委員 「居場所」と言えば、2021年版「子ども・若者白書」によると、子どもや若者が居心地の良さを感ぜられる「家庭」「学校」などの「居場所」が多いほど、充実感や将来への希望に対して前向きな気持ちになるということです。

子どもにとっても大人にとっても「居場所」の大切さは変わりませぬ。

市計画に沿って施設の工事や修繕は実施されると聞いていますが、令和2年度と比較すると中学校費は約12%も伸びていますが、主な要因は何でしょうか(図1)。

《施設の維持に必要な大規模改造工事》

○委員 予算の内訳を見ますと「学校施設」に関する項目が多く、予算も相当な額が組まれています。施設を持つては、以上、子どもたちや市民の皆様にも安全に使用していただくためにも、老朽化対策に係る経費はどうしても必要です。

市の計画に沿って施設の工事や修繕は実施されると聞いていますが、令和2年度と比較すると中学校費は約12%も伸びていますが、主な要因は何でしょうか(図1)。

○教育長 令和2年度に続き、懸案であった下里中学校の大規模改造事業を今年度にも実施する

ことが主な要因です。《深い学びにつなげるたいタブレット端末の配備》

習得、活用という学びの過程の中で、各教科の特色に応じた「見方や考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したりして「深い学び」ができるように、有効な道具として、ICTを位置付けて指導することが大切で。

○委員 一人1台のタブレット端末の導入が実現しました。

○教育長 一人1台のタブレット端末の導入は国の強力な推進により実現しました。

今後は経常的にかかってくるソフトウェアに係る経費、その先には機器の更新などがあり、市の財政負担の増加も気になります。

《研究奨励校等の制度を使う》

○司会 事業の進め方の一つとして、東京都の研究指定校や研究奨励校の制度を活用して交付金を受けられることができれば、1年間または2年間で、先進的な取り組みを行えるチャンスになりますね。

○委員 そういう情報はできるだけ早く事務局がキャッチし、精査し、学校に情報提供する必要があります。研究や研修を核にして、学校の活性化がさらに図られていきますから。

教師が変わり、授業が変わり、子どもが変わる。これが「学校が変わる」という原点です。例年、研究集録として報告が出ています。チャンスがあれば、事務局にも学校にも積極的に手を挙げて活用してほしいです。

効果的に予算を使って事業を進めるために、適切な評価を行います

○司会 学校教育に係る経費はさらに増えていると思うのですが、予算は限りがあります。例年、事業の厳しい選択が迫られます。

○委員 当該年度の事業を実施しながら、次年度の事業を検討していくこととなります。

学校でもPDCAサイクルが進んでいますが、教育委員会においても、市の施策評価や事務事業評価の他に、平成18年度に法律で定められた教育委員会の事業評価を行っており、既に10年を超えました。

○教育長 全ての教育委員会は法律等により、教育委員会の権限が及ぶ事務事業について評価

し、議会に報告し、公表することが義務づけられています。本市では予算編成の際に参考とするため、例年、9月に議会に報告を行っていますので、予算に反映することができています。

宮下委員には、平成20年度から10年近く、点検評価の評価者(有識者)を務めていただいています。教育委員会の施策に精通していらっしゃると思いますね。

○委員 当時はまだ教育振興基本計画が策定されていませんでしたから現在評価対象としている単年度計画がなく、四つの人間像の育成を目指す「教育目標」を達成するための事業を毎年評価していました。

私が評価者であった時に事務局に話をしていたことがありますが、それは

「評価には基準と規準がある」ということ。評価は数値を示すことで客観性と「見える化」が担保されますが、全てがそう示せるとは限りません。明確な数値が出せない場合は「数値は示せないが今後の見通しはきつちり示す」として評価していただきました。

○司会 委員は、評価をする立場から、今度は評価される側になりました。現在はその時の評価方法を変え、評価の層を厚くしていますね。

○委員 両方経験できたことは、とてもありがたいと思っております。評価者としての経験は、教育委員としてとても役立っています。評価方法ですが、事業の実績に対して、まずは1次評価として教育委員会内部で評価を行い、続いて、2次評価として、評価者が項目を選んで評価し、さらに、項目全体を通しての評価を受けています。

○教育長 今年度も8月の定例会に、有識者の評価を加えた報告書の審議をしていただく予定です。承認されましたら、前年度の事業の評価になります。予算編成時に、各所管にはどこを反映したのか確認します。

○司会 令和3年度に行う令和2年度分の評価からは、評価の基準が厳しくなり、より達成度とのかい離の原因を明確に示すことが求められると聞きました。

○教育長 国による「新経済・財政再生計画改革工程表2020」において、「地方自治体の教育振興基本計画にエビデンスに基づくPDCAサイクルに関する取り組みを盛り込む割合が、2021年度(令和3年度)には100%になること」が目標とされました。

このため、次期教育振興基本計画には具体的な取り組みを盛り込む必要があり、今後の点検評価報告書はそれに沿った評価を行っていきます。

○委員 評価のために事務が増えるのは別の問題があると思いますが、評価をきちんと積み上げていくことが、結局は事務局にとってもいい効果が出ると思います。

例えば、AとBの予算の配分を考える際、評価によってAにより多く配分するのか、またはBが廃止となりAに全額配分されるのか、市民に説明するのには客観的な根拠が必要ですから、義務的にやるのではなく、評価が何につながるのか意識して行うと、適切な評価ができると思います。

○司会 公立学校の副校長、教員の多忙については、社会においても大きな問題となっています。本市でも改善が進んで

進めよう！ 教員の働き方改革

公立学校の副校長、教員の多忙については、社会においても大きな問題となっています。本市でも改善が進んで

(4面に続く)